

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693500023		
法人名	社会福祉法人 楽慈会		
事業所名	西木津ぬくもりの里 (ユニット共通)		
所在地	京都府木津川市木津南後背30番地5		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2693500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2693500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	京都市右京区西院久田町5
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方がありのまま暮らし続けられるサポートを行っています。コロナ禍に伴い、現在は中止させて頂いていますが、地域での暮らしを大切に続けられるよう、地域の方と一緒に避難訓練や一年を通して盆踊り、大根煮の企画、ワンコインサロン、自施設にてボランティアの方達のカフェ運営など認知症への理解の為、ぬくもりのつどい(偶数月)やラン伴など交流を図っています。いつまでも自分のしたい事ができる支援を目標に統一したトランスファを実施、地域リハビリの活用など筋力低下を防ぎ春はお花見、秋は紅葉に出掛け月ごとの季節行事(新年祝賀会、初釜、節分、夏祭り、敬老祝賀会、音楽祭、クリスマス会など)楽しみを持った生活をおくって頂き健康で豊かな生活を送って頂けるよう支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念とあわせ事業所スローガン「あなたといっしょにずっと木津」をもとに実践を積み重ねてきています。事業所は、全体が木目の落ち着いた空間となっており、居室は馴染みのものを設え、温かい雰囲気を感じます。サービス提供に当たっては、センター方式を活用して職員全員で利用者の思いや意向の把握し、一人ひとりに合わせた支援が行われています。看取りケアも積極的に行い、家族には必要に応じてカンファレンスを行い、丁寧な説明のもと終末期の看取りの支援を行っています。また、偲ぶ会等ブリーフケアも行っています。地域とのかかわりは、これまで地域の活動(ワンコインサロンや地藏盆など)に出かけたり、事業所が行っているオレンジカフェ等で積極的に交流を図ってきました。今年度もコロナで制約はありましたが、もちつき、初釜、お雛祭りを施設内でを行い、交流を図るなど関係は良好です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所にて理念の掲示、朝礼での唱和を行っている。	法人理念を掲示、唱和している。ふまえて、事業所スローガン「あなたといっしょにずっと木津」をもとに実践している。日常的に地域との交流を大切にして理念の実践化につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により現在は中止しているが、地域行事や、施設行事にてボランティアとの関わりや、参加により継続的に交流している。	コロナで制約はあるが、もちつき、初釜、お雛祭りを施設内で行った。地域との関係は良好で喫茶や生け花教室の開催、マスクづくりなどにボランティアとして協力してもらっていた。 (一部コロナで未実施。)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回行っているぬくもりのつどいを実施し、認知症の事や地域からの知りたい事を出し、広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議の実施。地域包括、市、民生委員、ご家族の参加により、サービスの向上を図っている。	運営推進会議は、利用者、家族、地域住民代表、木津川市職員、、民生委員、地域包括支援センターなど様々なメンバーで構成されており、2ヶ月に1回開催されている。活発な意見交換が行われており、AED設置に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、協力体制を図っている。	メーリングリストや地域ケア会議(月1回)などを通じて日常的に連絡を取っており、顔の見える関係が出来ている。また、運営推進会議にも参加してもらい活動報告を行うとともに意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロという考えが定着している。又、年2回勉強会を行っており、勉強会を通して再確認も出来ている。	身体拘束ゼロ委員会を設置して、身体拘束ゼロを掲げるとともに歴史的にもゼロを保ってきている。12項目以外にもスピーチロックの徹底を行っている。身体拘束委員会を設置して独自にアンケート2~3回行い勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様。年2回の勉強会の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に勉強会も行っている。ご利用者すべての方が不自由する事無く暮らしているよう使える支援は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、職員が責任を持って契約をしている。又、法人改定後も早急に取り直し、常時新しくしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族との連絡を密にし、ご利用者へのサービス提供やリスクを共有している。又、満足度調査や家族カンファレンスを通してご家族の意見を出して頂いている。	満足度調査(年に1回)を行い、広報紙「ぬくもり」で回答結果を公表している。意見箱、面会時の機会等密に連絡を取っている。全員の家族と家族カンファレンスなども行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やGH会議、又、いつでも意見が出し合えるよう連携を行い進めている。	職員会議(月1回全職員)、グループホーム会議が意思決定の仕組みとして整備されている。また、面談(年3回)を行い、職員の意見や提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている。希望休が月4回取れる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会の実施。新人職員に向けた育成評価表があり、平等に取り組める環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学、研修を行っていたが現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に話を聞き取り、アセスメントを作成。ご本人の生活基準を変える事無く、ご要望や想いを提供。その上で関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を聞き、必要としている事を管理者はじめ、全職員で考え共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を大切に、さりげない関わり、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族、施設スタッフの三者で支え合い、全員が役割を持ち関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで大切にされてきた生活基準を変える事無く、いつまでも安心して暮らせる支援に努めている。	入所時にセンター方式、24時間ソートなどを活用し聞き取りを行い支援に反映している。知人が訪ねてきて会食したり、地藏盆への参加や家族の協力も得ながら(夕ご飯に帰ったりすることもある。)関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の認知度や性格、また生活基準を考え、その人がその人らしく暮らして頂ける支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、看取りの場合は偲ぶ会を行っている。通常の退所も必要に応じ、継続した関係性を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	私の姿シート・ライフサポートシートを活用し、職員全体で一人ひとりの思い、希望の把握に努めている。又、日々の行動や表情、言葉から思いを汲み取り確認する様にしている。	24時間シート、私の姿シート、ライフサポートシートを活用している。カンファレンス会議で職員の意見も反映して作成している。面会の機会を大切にして家族の声も聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、入所時に今までの生活歴、既往歴など詳しくシートに記入して頂き情報を共有している。面会時、ご本人のことを聞く事もできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察、カンファレンスを行い、職員間の連携を密にすることにより、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ライフサポートシートを使用し、ご本人の声を引き出し、それを元にケアプランを作成し実践している。会議の中で職員が意見を出し合いながら、現状のご本人に合った暮らしに近づけるようケアプランの見直しも行って	カンファレンス会議、会議には看護師の参加を得ている。IPADを活用して、介護計画を意識した記録をしている。日常的に看護師と介護職員が連携している。1か月評価(モニタリング)、ケアプランの見直しを半年に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadへの記録・申し送りノートの記入など情報を共有し、又、月1回ケアプランのモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況をしっかりと観察し、その時に合わせた対応を行い、柔軟な支援が行えるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状はコロナの影響で中止しているが、ワンコインサロンや地域行事の参加、近隣とのお付き合い、手芸サークル、習字、生け花等ボランティアの方の協力の元、暮らしを楽しめるように努めている。必要に応じて地域資源との連携を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりのかかりつけ医への受診、往診を継続してもらっている。必要時、かかりつけ医・家族・所長・看護師・担当スタッフが参加しカンファレンスを実施するなど連携を密にしている。	主治医は利用者、家族の意向を尊重し、かかりつけ医は自由に決めてもらっている。受診の都度、看護師が関係者と情報提供をしている。また往診される場合は診療支援をしてドクターとの信頼関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまやかな変化や日常的なことに至るまで報告でき、体調面で変化があった時の対応が早く、利用者に安心・安全な環境が提供出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご利用者様の状態を確認し、退院前カンファレンスに参加し、現状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて主治医、職員が連携をとり、家族・主治医の参加するターミナルカンファレンスを実施し、事業所が対応し得るターミナルケアについて説明を行っています。週末期には本人と家族とのふれあいを大事にして、納得され最期を迎えらるるよう努めています。再度になられた時職員会議、勉強会等で訓練や対応について話し合っている。	開設当時から、看取りケアは積極的に行われている。家族には必要に応じてカンファレンスを行い、丁寧な説明のもと終末期の看取りの支援を行っている。職員には、終末ケアについての研修会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議、勉強会等で訓練や対応について話し合っている。AED設置。AEDの勉強会の実施。マニュアルを作成し敏速な対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を設置しマニュアルを作成しています。年2回消火訓練、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施。避難訓練に地域の方の参加協力をお願いしている。地域福祉避難所に指定されていて、地域の協力体制も整っています。また地域の要望によりAED	年2回消防署との合同訓練を行っている。炊き出しを兼ねた大根炊きを開催して地域と協力している。緊急時の利用者情報一覧表も整備している。福祉避難所の指定を受けている。	BCP計画(事業継続)の策定を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、意識しながら、一人一人を尊重し、プライバシーを侵害しないような、言葉使い、対応、記録などを行っている。言葉使いについての勉強会を職員間で実施している。	入職時の契約書には秘守義務について同意書をもらうとともに、法人研修を行っている。日ごろから、職員同士やヒアリング、アンケートで、プライバシーの確保や個人の尊重について、確認しあう仕組みがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分の思いが率直に言える関係性を築くように努めている。本人が決める機会を作り、その聞き方も工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	待つ介護を心掛け、ご本人のペースを大切にしながら寄り添ったケア実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服選びや化粧水等、細やかな支援ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の嚥下能力や義歯の調節を行い、おいしく食べられるよう支援している。	季節に応じた食事、1か月に1回の行事食、お誕生日には職員が手作りケーキを作っている。ソフト職などその人に応じた食事形態で提供している。陶器のお皿等で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水を防ぐ為、細胞への吸収の良い補水液やスポーツドリンクをご家族に依頼し、個別対応を行っている。食事量・水分量を把握し少ない場合より水分補給を促している。体重の増減への配慮も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に応じた口腔ケアをして頂き、清潔保持に努めている。歯科による定期受診時の指導の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを知り、声掛けやトイレ誘導を行っている。最期までトイレに行くことを大切にしながら支援している。	排泄チェック表で、個々の方のパターンを知り、適時に誘導や声掛けを行っている。自立支援として、ほとんどの方がリハビリパンツから脱却して、昼間は、布パンツで過ごされるようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレでの職員介入時、マッサージを実施し便秘予防に努めている。必要に応じて便薬も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回の入浴が多いが、ご本人の希望により入浴できるよう心がけている。同性職員介助希望にも対応している。個浴を使用しご自身でしっかり浴槽に出入りして頂く等、下肢筋力の維持、リハビリにも繋がっている。	その方の入浴のタイミングや生活パターンに合わせて、午前午後の入浴タイムで行っている。入浴を楽しんでもらえるように、季節ごとの変わり湯や湯の温度は希望を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息の時間を作っている。夜間は、こまめな巡視と必要に応じてトイレの声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者様の服薬一覧表ファイルがユニット別に設置されている。臨時薬や追加、変更があった場合、随時、看護師より申し送りがある。服薬チェックリスト使用。服薬確認の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きなこと等を聞き取り実施して頂いている。現在中止しているが、以前は地域のボランティアの協力を得てサークル活動や喫茶等も定期的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常、散歩やテラスに出て外の空気を吸って頂く機会を作っており、ボランティアの方の協力も得ている。	コロナ禍のため、以前のような自由に外出できることは少なくなったが、施設のテラスで、天気の良い日はお茶を飲んだり、花を育て、水やりを楽しんでもらっている。歩ける方は本人の希望もあり、職員と一緒にゴミ出しをしてもらうことで、リフレッシュになっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替えにて対応しているが、ご本人の安心感と意向もあり小銭を持っておられる方もおられが使われる機会は現状ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡は職員がすることが多いが要望があれば架電している。遠くの知人と電話されたり、年賀状を出される方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日ご利用者と一緒に清掃を行い、清潔を保ち、カーテンにより光の調整や冬場加湿器の設置など快適に過ごして頂けるように対応している。季節を感じるような飾りや植物を置き、居心地よい空間作りを心掛けている。	個別に応じた空間を作っている。ユニット毎の行き来ができるようになっている。フロアから見えない場所にソファを置いている。季節に応じた花を生けたり飾りつけを行っている。利用者と一緒に掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じパーテーションを使用しセミセパレートの空間を作っている。廊下や玄関にソファを置きリラックスして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご仏壇や使い慣れた家具や日用品を持ってこられ、ご本人の生活を大切に居心地良く過ごしていただけるような工夫をして頂いている。安全面に配慮したレイアウトも行っている。	クローゼット、ベッド、冷暖房は設置となっているが、本人のなじみのものを用意してもらっている。季節ごとのレイアウトは家族と一緒にいたり、普段の掃除は職員と一緒に楽しみながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドはご本人が立ち上りやすい高さに調節を行い手すりの設置、トイレ、風呂に一人で立てるようにファンテーブルの設置。フロアには、ご本人の高さに合した椅子、テーブルを設置し、自らの力で出来るだけ動き、自立した生活が送れるように工夫している。		